

飛鳥稻淵宮殿跡(高市郡明日香村)

あすかいなぶちきゆうでんあと

ここは祝戸地区にある国営飛鳥歴史公園/ここに7世紀中頃以降に造営された宮殿跡である飛鳥稻淵宮殿跡が存在する



飛鳥の石遺物の一つ「マラ石」がある



明日香村にある謎の石造物の一つ。男性器を模したもので本来は真すぐに立っていたともいわれている。地元では、飛鳥川をはさんだ対岸の丘陵を「フグリ山」と呼び「マラ石」と一対のものと考えられる説もある。

子孫繁栄や農耕信仰に関係した遺物と考えることもできよう。

「マラ石」
Maraishi Stone

明日香村立

公園内を進むと、このエリアが飛鳥稲淵宮殿跡のようだ/標柱や説明坂がある



「史跡 飛鳥稻淵宮殿跡」と記された標柱



大化の改新後、中大兄皇子(後の天智天皇)が難波の宮から飛鳥の地に戻って来た際に、一時期住んだと言われている飛鳥川辺行宮の有力な候補地となっている/7世紀中頃に造営され、7世紀末前後には火災により廃絶したと云う

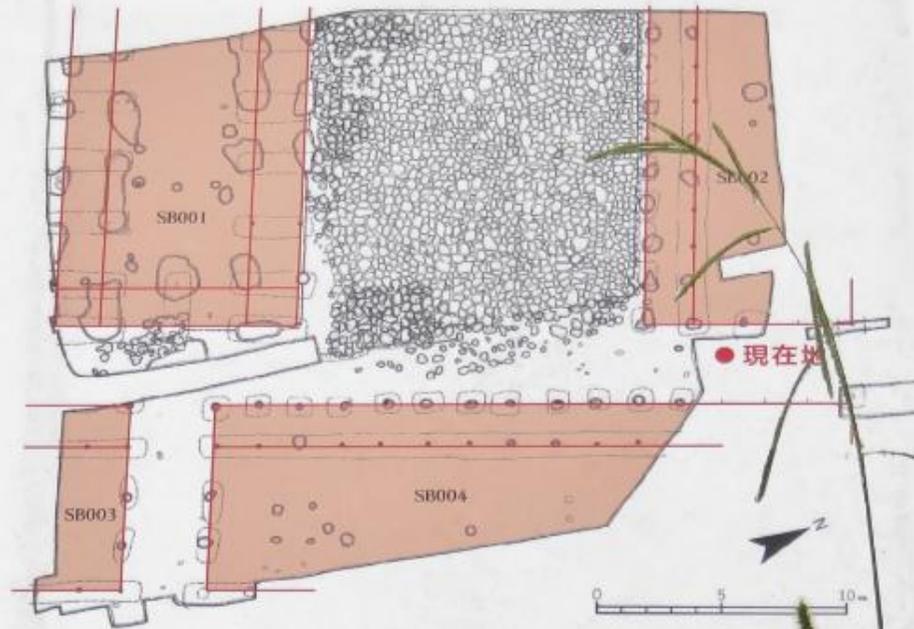
し せき あすか いなぶちきゅうでん あと
史跡 飛鳥稲淵宮殿跡

Asuka Inabuchi Kyuden Ruins

飛鳥川の左岸にある7世紀中頃の大型建物群の遺跡である。昭和52年(1977)の発掘調査で、4棟の掘立柱建物が見つかった。南北にならぶ2棟の主殿舎を中心にして、この東側に棟をそろえた2棟の脇殿を配置している。正殿は4面に庇をもった大型建物で、推定規模は正面24.6m、奥行10.2mである。後殿と脇殿も正殿側に庇を設け、各建物に囲まれた中庭には、大形の玉石を敷きつめるなど、極めて整った一画をしている。なお、未調査地の、正殿の各建西側にも対応する脇殿が予想されることからコ字形の建物配置が復元できる。このような規格正しい配置の建物や石敷は、宮殿の中心部と共通することから、天皇の宮殿あるいは、皇族の邸宅と考えられる。

大化改新後の白雉4年(653)に中大兄皇子らが難波から飛鳥にもどって来た時に、一時期営んだ飛鳥川辺行宮の有力な候補地である。

(昭和54年3月20日史跡指定、昭和56年5月16日、平成16年2月27日追加指定)



あすかなび
QRコード

<http://www.kitemile.me/asuka>



日本語
English
한국어
简体中文

明日香村

北東側からそのエリアを見たところ



左手を見ると飛鳥川が流れている



参考ホームページ

<https://ameblo.jp/taishi6764/entry-11928118015.html>

<https://ameblo.jp/hearten/entry-12028155359.html>

https://s.webry.info/sp/51601997.at.webry.info/201707/article_29.html

<http://sakuwa.com/n132.html>

http://kojou.sakura.ne.jp/2013/10/post_221.html

<http://www.asahi-net.or.jp/~ds3s-oomr/kodai/asuka/ina.htm>

